



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2074号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 栗原 達治 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

第2137回例会

2016.10.27晴

司 会

柴崎恵子君

ロータリーソング

「それこそロータリー」
指揮 石井良衛君

会長挨拶

会長 栗原達治君

改めまして、皆さま、こんにちは。ゲストの須田様・せせらぎ三島RCのビジターの皆さま、良くいらっしゃいました。ゆっくりおかつろぎください。

さて、10月16日に恒例の「見晴フェスティバル」が実施されました。焼き鳥1200本、豚汁600人分を完売し、好評を得ました。社会奉仕委員会の皆様をはじめ、会員の皆さま、奥様方のご協力ありがとうございました。また、広報委員会の皆様をはじめとした、会員の皆様のおかげで、本年度2度目になりますが、10月19日付静岡新聞朝刊にも記事が掲載されました。「RI」では、ロータリーについてのPR活動を重視しており、新聞等に取り上げられた場合には、ガバナー事務所に報告するよう求めています。前回の「献血運動」については、ガバナー月信10月号「地区からのお知らせ」コーナーに『三島西RCの事業 新聞掲載の紹介』という記事になっております。

また、「米山学友会スリランカ文房具寄付」については、「Facebook」「ロータリー2620地区米山学友会」を検索すると写真等を見ることができます。

「見晴フェスティバル」について、ガバナー月信に掲載されるのは、多分12月ごろではないかと思いますが、ご期待ください。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 須田治夫さん(関本(文)・前田(房)・
遠藤(武)・平野君のゲスト)
ビジター 山口辰哉君・兵藤弘昭君・藤川智徳君
(せせらぎ三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メ ー ク ア ッ プ	修 出 席 正 率
前々回	31/39	79.49%	35/39	89.74%
今回	36/43	83.72%	会員総数	47名

欠席者 大石君、小島君、相山君、鈴木(郁)君、橋本君、
矢野君、山口君

おめでとう

会員誕生日 関本(照)君
入会記念日 佐野君、花房君
結婚記念日 遠藤(正)君、柴崎君

幹事報告

幹事 藤江康儀君

- ①見晴フェスティバル準備10/16(日)ご苦勞様でした。
- ②11/3(木)祝日休会です。11/10(木)臨時総会です。お間違いないようにお願いします。
- ③11/23(水)夜間例会 ご案内の通り例会場・例会日変更です。また、多くのメンバーの皆様・ご家族も含めての出席をお待ちしております。
- ④パスト会長会議を10/20(木)に開催しました。主に例会場の選定についてご協議いただきました。来月、理事会を通してから、発表したいと思います。
- ⑤地区大会11/19・20土・日に開催されます。出席義務者の方は予定をお願いいたします。

2016～2017年度
国際ロータリー会長
ジョンF.ジャーム

人類に奉仕するロータリー

スマイルボックス

- ◆ 社会奉仕委員会、見晴フェスティバルに会員皆様と奥様方にご協力いただきまして誠にありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。
- ◆ 藤江君、見晴フェスティバル、準備から当日のお手伝い、ありがとうございました。天気が良かったこともあり、いつになく多くの皆様方が来場しておりました。お陰様で豚汁・焼き鳥・ジュース・甘酒、等大盛況でした。今年も少しでもお役に立てて良かったです。と嫁が申しておりました。
- ◆ 遠藤(武)君、今月ひ孫が生まれました。孫6人、ひ孫7人と大変うれしくもありますが、ちょっぴり複雑な気持ちです。昨日誕生日を迎えてしまいました。
- ◆ 古屋君、本日早退します。申し訳ありません。
- ◆ ゴルフ同好会、10月23日(日)に朝霧ジャンボリーゴルフクラブで、ゴルフコンペを開催しました。優勝 亥角さん・準優勝 鈴木郁夫さん・3位 平出さんでした。次回は、11月27日(日)に伊豆ハイツゴルフ倶楽部で行います。

卓 話

職業奉仕月間

職業奉仕委員長 川名正洋君

今月は職業奉仕月間です。4月の地区研修協議会で職業奉仕委員会の今年度クラブ内で4つの活動をしてくださいという話がありました。

1. 職業奉仕月間中に職業倫理観について講和を聞く。
2. 例会に出席してもらう、例会は相手から情報をとるということで職業奉仕のためにあるのだからということだそうです。
3. 会員の事業所訪問をする。
4. 職業奉仕についての話し合いの時間をもつ。

今日はこの中から職業倫理観について講和を聞くことをしたいと思います。講和をして頂くのは矢岸パスト会長です。矢岸さんの講和の前に地区協議会で学んできたことを私の方から少しお話させていただきます。

ロータリーの5大奉仕(国際奉仕・社会奉仕・青少年奉仕・職業奉仕・クラブ奉仕)の1つである職業奉仕の理念は He profits most who serves best 「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というモットーで表されています。このモットーはアーサー・フレデリック・シェルドンが1921年、スコットランドのエジンバラで開催された国際大会で提唱したものであり、職業奉仕は彼の考え方を、そっくりそのままロータリーが受け入れ、今日に引き継いでいる他の奉仕団体とは異なった独自の奉仕理念です。Profitという単語を巡ってイギリスが拒否反応を示したり、Heという代名詞を巡って性限定用語だという批判はあるものの、シェルドンの職業奉仕理念はいささかの修正も加えられることなしに現在に引き継がれています。シェルドンの職業奉仕理念こそがロータリーの職業奉仕理念であり、どんなに優れた考え方であったとしても、シェルドンと異なる考え方を、職業奉仕理念と呼ぶわけにはいきません。すなわち、シェルドンの奉仕理念を正しく知ることが、正しく職業奉仕を理解することにつながります。そこでまずはじめにシェルドンの職業奉仕理念とはどんな考え方なのかについてお話をしてみたいと思います。

我々職業人が自らの事業の継続的な発展を願うことは当然です。企業経営によって利益を得ることも当然であり、決して卑しいことではありません。しかし合法的でない方法や道徳的でない方法(人を泣かせたり、だましたり)や、他人から批判を浴びるような方法で一時的に大きな利益をあげたとしても、それは長続きするものではありません。シェルドンは自らの事業を継続的に発展させるための学問的な企業経営の理念と実践方法を考え出して、それをロータリーの職業奉仕理念として提唱したのです。シェルドンは、ロータリアンの職業は利益を得るための手段ではなく、その職業を通じて社会に奉仕するために存在するのであり、儲けを優先しようとして事業を営むことが、事業に失敗する最大の原因であると、次のような例を述べています。「今、仮に全世界の靴屋の会合が開かれて、靴に関連する職業を持っている全世界の人が集まったと仮定します。その人たちに、なぜ靴屋をしているのかと質問すれば、殆どの人は、儲けるためと答えるに違いありません。5%くらいの方は、自分の仕事は他の人のためになるから(職業を通じて社会に奉仕するため)と答えるかも知れません。仮に、その場所に大地震か何かの天変地異が起こって、集まった人たちが全員死んでしまったらどうなるでしょうか。当分の間は、何の影響もないかも知れませんが、やがて全世界の人たちは、靴を履くことができなくなってしまうことは確実です。そこで、初めて、5%の人たちが答えた、職業を通じて奉仕するという言葉の真意が理解できるのです。」

職業は専門職務と実業に分類されます。医者、僧侶、弁護士、教職者などの専門職務に携わる人は、利益を追求するためにサービスを提供するのではなく、相手の身分や報酬の金額に捉われずに、自己が保持する最高の技術を地域社会の人に提供することが義務付けられてきました。サービスを受けた人が感謝の念をこめて報酬を支払うのであり、財力のない人が支払を強制されることはありませんでした。これに対して実業家は原価に利益を加えた取引で生活を営まなければなりません。如何にして適正な利益を設定するのかという問題を抱えていました。

シェルドンは、自らが利益をあげることに狂奔せずに、自分の職業を通じて地域社会の人に奉仕するという態度で、すなわち専門職務の人と同じ考え方で企業運営をすれば、その見返りとして最高の利益が得られることを説いたのです。職業奉仕とは科学的かつ合理的な企業経営方法のことであり、シェルドンの職業奉仕理念に則った企業経営をすれば、継続的に最高の利益が得られることを証明する実践理論でもあります。他の奉仕活動の受益者はロータリアン以外の人たちですが、職業奉仕の受益者はロータリアン自身なのです。そしてそれを端的に示したモットーがHe profits most who serves bestなのです。なお、職業奉仕の実践は顧客の満足度を最優先した事業経営の方法ですから、当然のこととして高い職業倫理という結果が現れます。しかしそれは職業奉仕を実践した結果に過ぎず、職業倫理高揚を目的とした活動ではありません。

まとめとして

職業奉仕とは世のため人のために奉仕する心を持って職業に従事する、決して人を泣かせたりだましたりして金儲けしてはならない、その場その場の儲けではなく相手を儲けさせることをして、信用を築くための仕事をしなさい。それが儲けをつくる一番の早道である最後にインフォメーションですが、平成29年1月29日(日)に静岡グランシップにおいて2680地区尼崎RCのメンバーで眼科医の田中毅さんが「職業奉仕の源流を求めて」というタイトルで講演をされます、ご興味のある方は是非ご参加ください。

(週報担当:亥角裕巳)